

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見

意見提出元	(株)テレビ宮崎
-------	----------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望	<p>ワイヤレスブロードバンドの環境整備においては世界無線通信会議において3.4~3.6GHzがIMTに特定され、「周波数再編アクションプラン」にも示されているとおり、個人ユーザーの使用する伝送容量増大化の中、我国の次世代ワイヤレスブロードバンドは3.4~3.6GHzの帯域を中心に高度化されるものと認識しています。</p> <p>このような電波政策に則り、IMTの早期導入を可能とするため、我々放送事業者は3.4~3.6GHz帯の放送事業用固定局等を別のマイクロ波帯に移行させ、この帯域を返還する計画を推進しており、ワイヤレスブロードバンドの高度化に協力しているところです。</p>
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題	<p>放送事業者が中継や素材伝送用として利用していますFPUは、800MHz帯、7GHz帯、10GHz帯の周波数帯、またSNGでは衛星を利用しています。放送事業者ではこれらの周波数をその周波数特性にあった使い方をして番組制作をしています。特に800MHz帯FPUは、マラソンや駅伝中継など、移動中継で威力を発揮しています。マイクロ波帯FPUやSNGを利用した場合、ビルなどの遮蔽物等により回線が切れ、見通し外での長時間の回線破綻は番組制作上大きな制約となります。視聴者に安定した移動中継番組を提供する観点からもこの800MHz帯FPUは必要不可欠な伝送手段となっています。</p> <p>本格的HDTV時代に対応した技術も可能となり、制度的にも確立されれば、更なる利活用が期待されるところです。</p>
(3) 関連する国内外の動向と課題	
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	